

## 松阪市における高齢者の生活実態（第1報）

## 家族関係及び経済生活について

松阪大女短大 ○渡辺澄子 梅村郁子

《目的》高齢化の進展にともなって、松阪市においても高齢者に対する福祉施策が次々と追加されるようになった。また高齢者自身の自助努力の必要性も強調されてきた。しかしこの間バブル経済の崩壊や円高による不況、長雨や干ばつ等の異常気象等決して高齢者の生活し易い社会環境ではなかった。こうした状況の中で高齢者自身はどう変わったかを、12年前に同地域にて実施した実態調査の結果と照合しながら明らかにして行きたい。さらに高齢者の生活の各領域、各項目間の関連性を確かめ、前回示した、高齢者の生活構造のとらえ方を再検討したいと思う。本報では高齢者の家族関係及び経済生活について報告する。

《方法》松阪市在住の65歳以上の男女374名を無作為二段抽出し、質問紙を用いて、調査員による戸別面接調査を行った。調査期間は1994年6月～10月で、有効回答数は224名であった。調査内容は高齢者の生活構造を多面的に把握するため、日常生活、地域社会生活、経済生活、家族関係、健康、生活意識の各領域にわたる合計69項目である。

《結果》松阪市は人口12万の地方都市である。家族関係の中で家族型は前回と比較すると、一世代世帯が増加し、三世代世帯が大きく減少している。又前回は加齢と共に一世代世帯が減少する傾向であったのに対して、今回はその傾向が小さく80歳以上でも同居しない一世代世帯が25%と多く見られる。配偶者の有無でも前回は加齢と共に配偶者の無い者が徐々に増加する傾向にあったが、今回は70～74歳で急増している反面、80歳以上でも約半数の者は配偶者有りと答えている。収入額は前回と比較すると約1.7倍の増加がみられた。